

患者番号	性別	身長	cm	
カナ氏名	生年月日	体重	kg	指示医
患者氏名	年齢	体表面積	m ²	

Rp) パクリタキセル(タキソール) 100mg/m² day1,8,15,22,29,36 8週毎(6週投与2週休薬)

パクリタキセル投与30分前にレスタミン錠10mg5錠(50mg)内服

本管①	Day15
生理食塩液	100mL 1 瓶

レジメンコメント1
レジメンコメント2

側管①	生理食塩液開始時5分かけて
5分	【50mL】生理食塩液 50mL 1 瓶
↓	ファモチジン注射用20mg「日医工」 1 瓶
↓	デカドロン注射液1.65m 2 管
↓	

2回目以降(過敏症状発現ないとき)デカドロン注射液2管へ減量可

側管②	
15分	パロノセトロン点滴静注
↓	バッグ0.75mg 50mL 1 袋
↓	

側管③	インラインフィルター使用
60分	大塚生食注 250mL 1 袋
↓	パクリタキセル mg
↓	タキソール注射液100mg 16.7mL:
↓	タキソール注射液30mg 5mL:
↓	

Day22へ続く

<実施時の注意>

漏出時:直ちに投与を中止し薬剤を吸引、洗浄し、ステロイドの局注、ステロイドの外用剤で対処する。
 0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与。
 点滴用セット等で本剤の溶解液が接触する部分に、可塑剤としてDEHPを含有しているものの使用を避けること。
 溶剤として無水エタノールを含有するため、投与前に問診により適切かどうか判断すること。

<用量規制因子>

各クールを開始する際(初回クールを含む)、投与前の白血球数が3000/mm³未満又は好中球数が1500/mm³未満であれば、骨髓機能が回復するまでは投与を延期すること。同一クール内での本剤の投与にあたっては、投与前の白血球数が2000/mm³未満又は好中球数が1000/mm³未満であれば骨髓機能が回復するまでは投与を延期すること。投与後、白血球数が1000/mm³未満となった場合には次回の投与量を減量すること。
 また、重篤な末梢神経障害が発現した場合には、次回の投与量を骨髓抑制の減量目安に従い、減量して投与することを考慮する。
 減量の目安:100mg/m²→80mg/m²→60mg/m²

<注意すべき副作用>

●過敏症 ●食欲不振、吐き気 ●筋肉痛、関節痛 ●口内炎 ●手足のしびれ ●脱毛(頭髪、まつ毛、眉毛など)
 ●白血球減少 ●赤血球減少(貧血) ●血小板減少 ●肝機能低下